

研究成果情報1

[成果情報名]第6世代までの新系統豚の改良状況

[要約]改良形質である背脂肪厚及びロース断面積は第5世代までに、ドリップロスは第6世代で、目標値を達成している。その他の改良形質である一日平均増体重及び筋肉内脂肪においても環境要因を除いた遺伝的能力の改良において順調に改良が行われている。

[担当]畜産試・養豚科・赤尾友雪

[分類]研究・参考

[課題の要請元]

畜産課
養豚農家

[背景・ねらい]

最近の食肉における消費者動向は、生産経路が明確かつ安全でおいしい畜産物を求める傾向にある。

本県では平成16年度に姉妹州である米国のアイオワ州や国内から優良な種豚を導入し、新系統豚の造成を開始した。

新規に造成する系統豚は、雄系をメインにした活用を予定しており、生産者が求める発育性や産肉性の改良とともに、消費者に肉質や食味でアピールできる改良を行うことで、山梨県独自の特徴ある新銘柄豚生産に活用する。

[成果の内容・特徴]

1. 背脂肪厚及びロース断面積は第5世代までに改良目標値をほぼ達成している(表-1)。
2. 1日平均増体重は、表型値において第6世代は第5世代とほぼ横ばいであるが、育種価における改良は進んでいる(表-1、図-1)。
3. 同様に筋肉内脂肪においても、表型値で横ばいであるが、育種価における改良は進んでいる(表-1、図-2)。
4. ドリップロスは、育種価で順調に改良が進み、第6世代で改良目標値を達成した(表-1、図-3)。

[成果の活用上の留意点]

1. 新系統豚の系統認定及び生産者への種豚売却は平成24年度を予定している。
2. ロース断面積については、第3世代から第6世代までの遺伝相関から改良を進めていく上で問題はない(表-2)。

[期待される効果]

発育性や産肉性に加え肉質の改良に重点をおいた新系統豚を造成・活用し、新たな山梨のブランド豚肉を生産することで県内養豚農家の経営安定につなげる。

[具体的データ]

表-1 改良目標値と第5世代の成績

改良形質	目標値	第2世代	第5世代	第6世代
1日平均増体重 DG(g/d)	1000	822	936	934(♂)
背脂肪厚 BF(cm)	1.80	1.31	1.76	1.79(♂)
ロース断面積 EM(cm ²)	38.0	40.2	39.1	36.0(♂)
筋肉内脂肪 IMF(%)	3.50	2.77	3.36	3.25(去勢・♀)
ドリップロスDL(%)	1.30	1.63	1.81	1.12(去勢・♀)

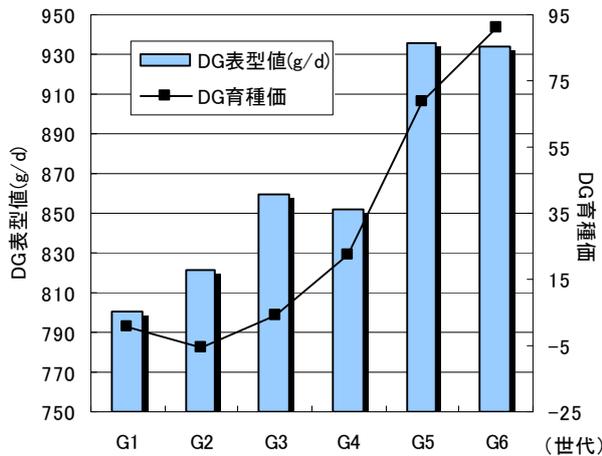


図-1 DGの世代経過改良状況

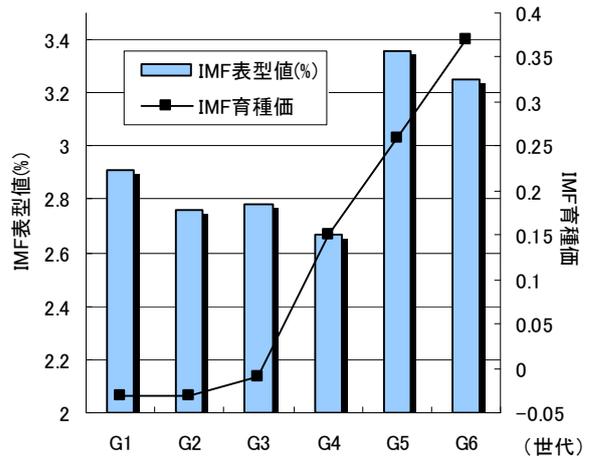


図-2 IMFの世代経過改良状況

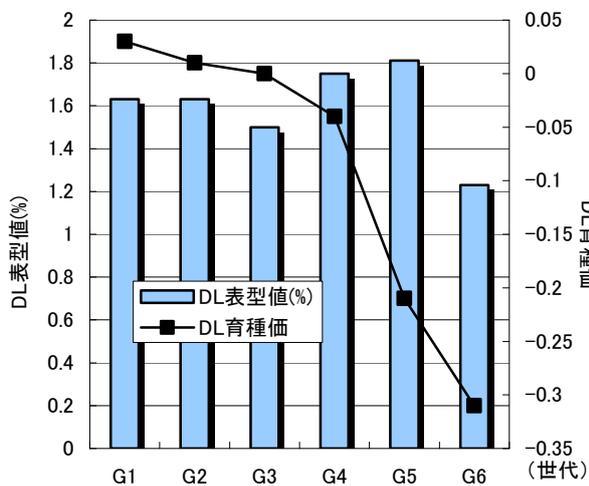


図-3 DLの世代経過改良状況

表-2 改良形質の遺伝率と遺伝相関(G3~G6)

	DG	BF	EM	IMF	DL
DG	0.48	0.02	-0.02	-0.41	-0.68
BF		0.63	-0.41	0.14	0.18
EM			0.34	-0.23	-0.59
IMF				0.41	0.07
DL					0.28

対角: 遺伝率、対角上: 遺伝相関

[その他]

研究課題名: やまなしの新銘柄豚の開発

1) 新系統豚の造成

予算区分: 県単

研究期間: 2004年~2011年

研究担当者: 赤尾友雪、片山努、古屋元宏